

IPM実践指標(茶)

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄			
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
予防	病害虫の発生しにくい環境の整備	炭疽病やもち病の多発地帯では、ほ場が陰湿にならないよう可能な限り周辺の林木を伐採したり枝管理を行う。				
	病害発生源の除去	ツマグロアオカスカメの増殖・飛来源となる雑草や樹木、ゴマフボクトウの産卵源となるほ場周辺の樹木の枯枝を除去する。				
	適正な品種の選択	炭疽病、輪斑病、赤焼病等の常発地帯では、改植・新植する場合に抵抗性の強い品種を、裂傷型凍害の常発地帯では、改植・新植する場合に抵抗性の強い品種を導入する。				
	雑草対策	各種資材や敷き草等でマルチングすることで雑草を抑制する。				
判断	病害虫発生予察情報等の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報や普及指導センター等が出す病害虫に関する情報を入手し、発生状況を確認する				
	気象状況の把握	気象情報を把握し、適切に防除を実施する。				
	病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。				
	雑草の発生状況の把握	茶園及びその周辺に発生している雑草の草種と発生量を観察及び確認する。				
防除	ハマキムシ類	性フェロモン剤の使用	性フェロモン剤を団地単位で積極的に導入する。			
		生物農薬の使用	病原性ウイルス剤(GV)やBT剤を使用する。			
	ヨモギエダシヤク、チャノホソガ、ナガチャコガネ	生物農薬の使用	発生している場合には、BT剤を使用する。			
	クワシロカイガラムシ、チャトゲコナジラミ	土着天敵の保護	寄生蜂等の天敵に影響が少ない農薬の使用を心がけるとともに、天敵の活動時期に影響の高い農薬の使用を控え、活動を保護する。			
	カンザワハダニ	土着天敵の保護	ケナガカブリダニ等の天敵に影響が少ない農薬の使用を心がけるとともに、天敵の活動時期に影響の高い農薬(ピレスロイド剤等)の使用を控え、その活動を保護する。			

IPM実践指標(茶)

分類	管理項目		管理ポイント	チェック欄				
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況		
防除	耕種的・物理的防除	炭疽病	せん枝	2番茶収穫後に罹病葉を除去するため、せん枝する。				
		赤焼病(幼木・自然仕立て)	防風ネット	強風による発生を軽減するために、防風ネットを設置する。				
		チャノドリヒメヨコバイ・チャノソガ・ツマグロアオカスミカメ	防虫ネット	中切り園では中切り直後から夏整枝まで、苗床では挿し芽(密閉挿しではビニール被覆解放後)から定植まで目合い1mmのネットで直接被覆する。				
		クワシロカイガラムシ、チャトゲコナジラム	せん枝	多発茶園では一番茶摘採後に中切り更新し、寄生部を除去するとともに樹勢回復を図る。				
		クワシロカイガラムシ	スプリンクラー散水	クワシロカイガラムシのふ化期に、茶の枝が常に濡れた状態になるように、スプリンクラーで断続的に2週間程度散水する。				
		チャノソガ	黄色ナトリウム灯	チャノソガの成虫が発生する3月下旬から9月下旬まで、夜間点灯する。				
		ゴマフボクトウ	被害枝の除去	食入被害枝は早めに取り除き処分する。				
	雑草	マルチ・敷草・機械除草	マルチ(定植時)やうね間の機械除草、敷草等の除草剤を使用しない雑草管理対策を実施する。					
	化学的防除	農薬の使用全般		十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。				
		適正な散布方法		散布ムラがないようにする。				
		剤の選択			薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。			
					天敵に影響の少ない薬剤を選択する。			
					化学農薬に対する感受性の低下を抑制するため、物理的防除効果のある剤を組み入れる。			
				除草剤を使用する場合は雑草の発生状況や草種を確認し、適切な剤を選定する。但し、ひこばえにかかると薬害を生じるので注意する。				
	農薬飛散防止対策		農薬散布は、無風～弱風時に飛散が少ない散布器具を使用するなど、他の作物などに飛散しないように、適切な飛散防止策を講じる。					
	散布後の処理		散布器具、タンク等の洗浄を十分行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。					
	その他	土壌の流亡防止対策		のり面の保守等によって土壌流亡の防止に努める。				
作業日誌の記帳		各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の名称、使用時期、使用量、散布方法等栽培管理状況を記録する。						
研修会等への参加		県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加し、情報収集に努める。						